

ジャノメチョウ

Minois dryas

ジャノメチョウ科



ジャノメチョウ

名前の由来

翅に目玉模様がありこれが蛇の目のようだというところからこの名がついた。チョウという言葉はもともと「漢語」から取り入れたものである。漢字名：蛇目蝶

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし。

形態的特徴

濃い黒褐色で黒い縁のある青みがかった眼状紋のある、大型のジャノメチョウ類。

メスはオスに比べて一回り大型で、地色は淡色となる。斑紋に地理的変異は現れない。

類似種と見分け方

大きさ、色、紋の数などで見分けやすいが、クロヒカゲ、ヒメウラナミジャノメなどといったジャノメチョウの仲間がいる。

表の紋は前翅1つ、後翅2つ



ヒメウラナミジャノメ。オス（表）

ウラの紋は前翅1つ、後翅5つ以上

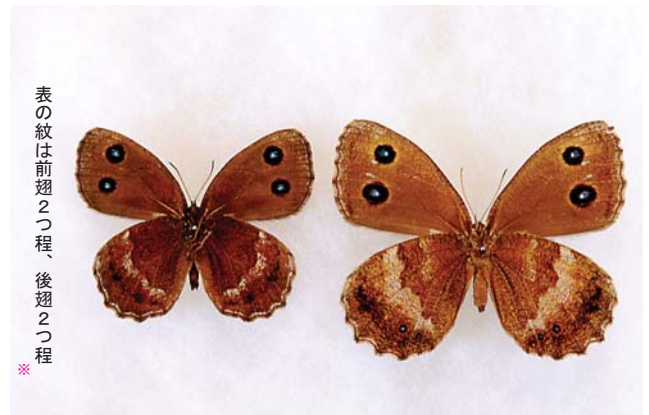


ヒメウラナミジャノメ。オス（ウラ）

※：紋の数は個体によって違う場合があります



ジャノメチョウ。表（左がオス、右がメス）



ジャノメチョウ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期						■						
幼虫期	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■
蛹期				■	■							
成虫期				■	■	■						

生育環境・分布

主に草地に生息。堤防や牧場周辺、山地の開けた草地など日当たりの良い場所を好む。

分布：国外分布は、ヨーロッパから東アジアまでの広範な範囲。国内分布は、九州以北の日本全土。北海道内分

布は、全域。

十勝地方では、平野部から山間部まで普通に見られ、数も多い。

繁殖生態・寿命

年1回発生。成虫は7～9月に出現。越冬態は幼虫。母蝶は草の中に潜り込み、あちこち歩き回り、時折葉上などで静止すると卵を産み落とし、卵は地表にころがる。孵化時期、越冬前、越冬中の幼虫の生態はよく調べられていない。室内では卵は孵化までに1ヶ月余りかかる。食草の新芽が伸びてきた5月ごろ、2～3歳の幼虫が見

られることから若齢幼虫で越冬すると考えられる。終齢幼虫は日中、食草付近の地表の枯れ草などの間から見つかる。飼育条件下では夜間に葉を食べることから、野外でも夜行性と思われる。蛹は地表のくぼんだ所などに行き着くようにして発見され、他物に付着していない。蛹の殻は薄い。寿命：不明。

他生物との関わり

- *幼虫はクサヨシ、ショウジョウスゲ、ヒカゲスゲ、ノガリヤス、ススキなどを食草とする。
- *成虫の吸蜜植物としてはエゾノキツネアザミ、セイヨウタンポポ、クガイソウ、ヒメジョオン、ヒヨドリバナ、クサフジなどのほか多くの種が知られている。
- *またオノエヤナギなどのヤナギ類の樹液や熟した果物、動物の糞やヒトの汗にも飛来する。
- *夜半に成虫がアオオサムシに捕食されていた例がある。
- *幼虫の体表に寄生蠅が産卵しその体内に寄生する。

幼虫の食性（食草）

クサヨシ、ショウジョウスゲ、ヒカゲスゲ、ノガリヤス、ススキなど。



クサヨシ。ジャノメチョウ幼虫の食草の一つ

興味深い話

- 幼虫はススキやクサヨシ、ノガリヤス、スズメノカタビラなど多くのイネ科、カヤツリグサ科の雑草を食べるのだが、奇妙なことに食草があるからといって必ずしも産地になっていない。全道に広く分布しているものの、産地は局地的なようである（十勝では比較的広く分布している）。しかし、どの産地でも個体数は多い。
- 母蝶は草の中に潜り込み、あちこち歩き回り、時折葉

上などで静止すると卵を産み落とし、卵は地表にころがる。

■蛹は地表のくぼんだ所などに行き着くようにして発見され、他物に付着していない。

■十勝地方のアイヌ語では、ジャノメチョウ類を「トゥレブアカムマレウレウ」、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

クサヨシ、ショウジョウスゲ、ススキやスズメノカタビラなどの食草が必要。

参考文献

- 「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990 関社 1986
- 「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981
- 「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978
- 「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
- 「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984
- 「学研生物図鑑 昆虫Ⅰチョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983
- 「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
- 「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986
- 「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅳ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1984
- 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
- 「コタン昆虫記（4）チョウ篇」井上寿 十勝地方史研究所 1988
- 「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類